

神戸女学院重要文化財指定記念講演会

院長挨拶

院長 森 孝 一

本日は、重要文化財指定記念講演会のために、ご参集くださいます、まことにありがとうございます。北海道、東京、神奈川、四国という遠方からのご参加も含めまして、当初の予想を超えるご参加がございましたために、せっかくおいでくださいましたのに、講堂にお入りいただくことができず、別室でテレビ中継をご覧いただくことになりました皆さまに、心よりお詫びを申し上げます。

今回の重要文化財指定の意味や、ヴォーリズ建築と神戸女学院校舎群の特徴につきましましては、このあと、三人の講師の皆さんから、たっぷりと話を伺うことができると思います。

最初のご講演は、東京藝術大学大学院教授の長尾^{ながお}充^{みつる}先生です。先生は昨年まで、文化庁の調査部門主任文化財調査官でいらっしゃいました。昨年、本学キャンパスの調査を行ってくださったお立場から、重要文化財指定に至ります経緯について、お話しただけだと思います。

第2部のご講演を担当して下さいますお二人の講師、大阪芸術大学教授の山形政昭先生^{やまがたまさあき}と石田忠範建築研究所代表の石田忠範^{いしだただのり}さんは、日本を代表するヴォーリズ建築の研究者であり、とくに、神戸女学院のヴォーリズ建築に対する思い入れは、どなたにも負けないものをお持ちの方であると推察いたします。お二人からご講演を伺えることを、楽しみにいたしております。

さて、本日の重要文化財指定記念講演会には、感謝の意味をこめまして、ご

来賓の皆さまをお迎えいたしておりますので、ここでご紹介させていただきます。まずは壇上にお座りのご来賓の皆さまをご紹介します。壇上のご来賓の皆さまからは、このあとご挨拶をいただくことになっています。

兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課課長^{むらかみやすみち}の村上裕道さま。続きまして、西宮市教育長^{いとうひろあき}の伊藤博章さま。

兵庫県および西宮市の教育委員会の皆さまには、今回指定をいただくまでの、さまざまな段階におきまして、ご丁寧なご指導をいただきました。また、今日の指定記念講演会開催に際しまして、ご後援をいただきましたこと、心より御礼を申し上げます。

つぎに4名のご来賓をご紹介します。株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所 代表取締役所長^{たなかけんいち} 田中健一さま。株式会社竹中工務店専務執行役員^{あま}の天^の野^の直^の樹^きさま。公益社団法人神戸女学院めぐみ会会長の小澤妙子^{おざわたえこ}さま。Kobe College Corporation-Japan Education Exchange 会長^{すぎうら こう}の杉浦 剛さま。

以上、4人のご来賓の皆さまのご紹介を兼ねまして、神戸女学院岡田山キャンパス建築の経緯についてご紹介いたします。

神戸女学院はいまから139年前の1875年(明治8年)の今日、10月12日に神戸に設立されました。創立者は、アメリカのプロテスタントの一教派である会衆派教会の海外宣教団体「アメリカン・ボード」から派遣された二人の婦人宣教師、イライザ・タルカットとジュリア・ダッドレーです。関西における最初の女子教育機関としての出発でした。

神戸女学院設立は、キリスト教の伝道と共に、明治維新直後、近代化へと向かい始めた日本において、自律的で有能な女性を育成するために、近代文明としてのアメリカ文明を伝えることが目的であったと思われます。

創立当初のキャンパスは、現在の兵庫県庁の少し南の山本通、現在の私立神港高校がその場所です。創立当初は「女学校」と呼ばれ、最初は小学校レベルの教育でしたが、名前を「英和女学校」と変更し、中学高校レベルの教育を経て、現在の大学レベルの女子の高等教育機関と発展いたしました。いまから

120年前の1894年(明治27年)、学校の名称を神戸女学院(Kobe College)と変更し現在に至っています。

学校の発展と共に学生数が増加し、神戸山本通のキャンパスが手狭になったためにキャンパス移転が計画されました。当初は大学部門だけを、明石の大蔵谷の丘陵地帯に移転する計画で、学院の同窓会は、新キャンパスのための土地を購入してくださり(13万7千円)、神戸女学院にご寄付いただきました。その後、計画の見直しと変更がなされることになりました。

大学だけの移転ではなく、中高部も含めた全キャンパスの移転に変更され、場所も大蔵谷から現在の西宮市岡田山へと変更されました。神戸・大阪からも通学に便利であることが、移転場所変更の最大の理由であったと思われます。当時としてはまだ辺鄙であった大蔵谷と比較して、岡田山の土地購入代金は高額になりました(25万円)。当時、竹中工務店の店主(社長)であった竹中^{たけなかとう}藤右衛門^{えもん}氏は、神戸女学院の教育への良き理解者であり、氏のご好意によって、大蔵谷の土地との交換のかたちで、岡田山の土地を入手することができました。同窓会、現在のめぐみ会と竹中工務店に、改めて、御礼を申し上げます。

さて、土地は用意できましたが、つぎはキャンパスの建築です。当時院長であったデフォレスト先生は、岡田山キャンパス全体の設計を、アメリカから信徒伝道者として来日し、滋賀の近江八幡を中心に、ユニークな宣教活動を行っていたウィリアム・メレル・ヴォーリズと氏の建築事務所に依頼し、竹中工務店に施工を依頼いたしました。ヴォーリズについては、この後のご講演でお話しいただけることと思いますが、ヴォーリズの妻、一柳^{ひとつやなぎ}満喜子^{きこ}は神戸女学院音楽部ピアノ専攻の第1回卒業生であったことをご紹介します。

建築のための費用は、アメリカの神戸女学院支援団体である Kobe College Corporation が全米のクリスチャンに呼びかけ、当時の金額で70万ドル(現在の貨幣価値に換算すると100億円以上)の募金を集めて神戸女学院に捧げてくださいました。東洋の一角である日本の一女子校のために、全米のクリスチャンがこのように多額の献金を捧げてくださったことに、改めて心より感謝申し上げます。この募金の締切は1929年7月でした。あの一大恐慌がアメリカと世界を襲っ

たのが、募金締切の3ヶ月後の同年10月であったことを考えると、幸運に恵まれていたことに感謝せずにはおれません。もし、募金時期が大恐慌の後であったなら、あれほどの高額は集まらなかったに違いありません。

ヴォーリズは潤沢な建築資金に恵まれて、彼の美意識と建築技術のすべてを傾注して、神戸女学院岡田山キャンパスの設計を行うことができたのだと思います。しかし、彼はつぎのような言葉を残しています。「贅沢過ぎるという事は粗末過ぎで醜悪である事と同程度に悪い事である。」彼が目指したものは、豪華な建物ではなく、品格ある建築であったのだと思います。

81年前に建築された岡田山キャンパスは、太平洋戦争、阪神淡路大震災という二つの未曾有の災禍を経て、今日までこのように美しい姿で存続することができました。それを可能にしてくださったのは、神戸女学院の先人の皆さまのたゆまないご努力であったと思います。今日は多くの卒業生の皆さまがお集まりくださり、喜びをともにいたしておりますが、卒業生の皆さまは在学当時、登校すると上履きに履き替えて、ヴォーリズの校舎を利用されたことを、懐かしく思い出されておられるのではないのでしょうか。水分や固いものには比較的弱い、ダンロップのラバータイルの床を保つために、上履きに履き替えてくださったのだとお聞きいたします。

オリジナルなヴォーリズ建築を、周囲の景観と共に保全することができた一つの理由は、移転当時と比べて、その後の学生・生徒数の増加が、比較的緩やかであったことが挙げられると思います。しかし、学生数の増加と共に、新しい校舎の建設が必要となつてまいりました。新しい校舎を建設するときも、オリジナルなヴォーリズ建築とその周囲の景観を保全する努力が行われてきました。

中庭の中心、噴水あたりに立って、周囲を見回しますと、中庭を取り囲む4棟以外に目に入る建物はあります。4棟の屋根の上に、新しい建物が見えるような位置には建設を行わないという、暗黙の了解が継承されてきたのだと理解しています。私が院長に就任いたしました2010年以降、新築されたホルブル

ック館の建築にあたっても、オリジナルのヴォーリズ建築の景観を守るために、ヴォーリズ建築からの距離を大切にいたしました。建築経費は平地に建築する方が安くつくのは分かっていたのですが、あえて崖の傾斜地に建築を行いました。

今後も今まで以上に、ヴォーリズ建築とその景観を保全するための努力を重ねていきたいと願っています。

ヴォーリズ建築とその景観を守るための努力は、学内においては、施設課を中心に年次計画のもとに行われていますが、学外の業者の皆さまからも、長年にわたり、岡田山キャンパスの保全のために、大きなご貢献をいただけてまいりました。今日、ご出席の皆さまをご紹介します、心底より感謝申し上げます。ご紹介いたしますので、その場でご起立をお願いいたします。

株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所さま。岡田山移転後も、ヴォーリズ建築の保全改修、またヴォーリズ建築と調和した新築校舎の設計監理に携わっていただいています。

株式会社竹中工務店さま。岡田山移転後の新築校舎の多くの設計施工を担当してくださいました。重要文化財指定後の、ヴォーリズ建築の保存計画の策定にも、積極的に関わっていただいています。

株式会社朝日工業社さま。1925年の創業以来、本学院の新築や既設建物の空調工事に関わってくださっています。

東海警備安全保障株式会社さま。ヴォーリズ建築をはじめ、キャンパス内の警備を担当してくださっています。

株式会社大阪城口研究所さま。創業93年の同社は、岡田山移転に際し、竹中工務店の衛生設備の下請け業者として従事してくださいました。その後も神戸女学院との関係は深く、給排水衛生設備業者として関わってくださっています。

株式会社 MHI ジェネラルサービシーズさま。現在25名の社員を派遣していただき、日常的な設備点検をはじめ、清掃など学校運営に不可欠な業務を担ってくださっています。

朝陽電気株式会社さま。創業95年を迎えられた電気設備工事会社で、81年前

の岡田山移転の際にもご尽力を頂き、今も新築や改修工事に携わっていただいています。

株式会社永瀬さま。阪神淡路大震災で、それまで講堂前にあった茶室が倒壊し、それを知った卒業生である室谷氏より茶室の寄付の申し出があり、その移築工事を手掛けられたのが本学院との関係の始まりでした。今も改修工事等を担当していただいています。

株式会社熊谷組さま。2008年に本学院の校舎2棟を新築していただき、今も学内の改修工事等に携わっていただいています。

ご紹介いたしました業者の皆さまは、岡田山キャンパスのヴォーリズ建築の保全・改修、また新しい校舎の建設に際して、オリジナルなヴォーリズ建築とその景観を保全するために、細やかなご配慮を行ってくださっています。今回の重要文化財指定は、皆さまのご努力の結果でもあることを思い、改めて感謝を申し上げます。

今回、重要文化財指定を受けましたヴォーリズの校舎群は、神戸女学院の卒業生・在校生・教職員・関係者にとって、これまで輩出してきた素晴らしい卒業生と並んで、何よりも大切なものであり、また誇りとするものです。

ヴォーリズは教育施設としての、そして宗教施設としての品性を何よりも大切にいたしました。「美しい心を育むための品格ある建築」、これこそヴォーリズが神戸女学院岡田山キャンパスの建築において、目指したものであったと思います。このかけがえのない神さまからの賜物を大切に保存しながら、ヴォーリズが建築によって表現しようとした全人教育の理想を、教育の面において実現するために、今まで以上に努力することをお約束し、私からの御礼のご挨拶とさせていただきます。